

# 地域における青少年健全育成事業について (多文化理解の視点から)

令和元年7月18日

東京都生活文化局 都民生活部

地域活動推進担当

平林 信彦

# 地域における青少年健全育成事業について (多文化理解の視点から)

- 青少年応援プロジェクト@地域
- あいさつ音楽劇
- 地域における青少年健全育成応援事業補助
- ホップ・ステップ・ダイバーシティ講座

# 青少年応援プロジェクト@地域

## 目的

様々な分野で活躍している方を講師として招き、体験(海外での経験やパラリンピック競技等)を伝え、交流を行うことにより、地域の青少年や健全育成に携わる大人がダイバーシティ意識を育む機会を提供する。

## 概要

「多文化への理解」、「障がい者への理解」、「高齢者への理解」、それぞれのテーマで、講演会や交流体験を通じて、ダイバーシティ意識を育むイベントを区市町村と連携して実施する。

3つのテーマの中から、区市町村が選択したテーマに基づき、

【第一部 出演者による講演会】

【第二部 出演者の特性を生かした交流体験・情報交換】

の二部構成で、合わせて100分のプログラムを実施。今年度は年間で20回実施予定。

## 対象

青少年や青少年健全育成地区委員及び区市町村の地域住民等

## 多文化理解のための工夫

- 【例】・講師:ジェフ・バーランド氏(京都外国語大学 教授)  
・講演テーマ:「十人十色のコミュニケーション」～地域で支える! みんなで育てる!～  
・第2部:異文化交流型ワークショップ  
など、多文化理解を深めるコミュニケーションについて考え、体験できる機会を提供。

## 平成30年度実施回数

計19回

- ・多文化への理解 13回
- ・障がい者への理解 6回
- ・高齢者への理解 0回



第一部 講演会の様子



第二部 交流体験・情報交換の様子

## 参加者の感想(抜粋)

- ・異文化を楽しむ、大切に育てていきたいと感じた。
- ・周囲にちがう感覚をもった人がいるということを実感した。
- ・自分と違う人から学ぶ。人と人のふれあいがコミュニケーションの原点という話がためになった。

# あいさつ音楽劇

## 目的

子供達が、「あいさつをすることの大切さ」、「相手を思いやる心」や「社会のルールを守ること」の大切さ等を学ぶ。また、大人も、「あいさつをすることの大切さ」等を改めて考える契機とする。

## 概要

あいさつを題材にした「あいさつ音楽劇を」を都内の小学校で開催。小学生を主人公とした劇を通して、友達や周囲の人との関わりの中で、あいさつから始まる心と心のふれ合いの大切さを伝えている。劇の中では、あいさつソング「あいさつは魔法の力」を、鑑賞している子供達と一緒に合唱する。今年度は年間で9回実施予定。

## 多文化理解のための工夫

あいさつソング「あいさつは魔法の力」に英語のあいさつの歌詞が入っているが、最近では、より多くの言語に触れてもらうため、劇の中で、フランス語や中国語、ドイツ語等のあいさつについて子供達に質問し、答えてもらう等の工夫をしている。

また、開催校の子供達に配布するあいさつ運動普及啓発グッズ(下敷き)には、様々な国の言語によるあいさつを記載し、子供達が日頃から多文化に親しんでもらえるようにしている。

## 平成30年度実績

計 7 回 (小学校 7校で実施)  
世田谷、日野、瑞穂、葛飾、羽村  
八王子、練馬



あいさつ音楽劇の様子

## 児童の感想(抜粋)

- ・みんなで一緒に合唱したのが楽しかった。
- ・普段もあいさつをしているが、地域の人にもあいさつしようと思った。
- ・あいさつの大切さと心の勇気を学べた。
- ・あいさつはとても大切で素敵なことだと感じた。



あいさつ運動普及啓発グッズ(下敷き)

# 地域における青少年健全育成応援事業補助

## 目的

子供の正義感、倫理観などを育むと共に、地域の中で、高齢者、障がい者、外国人との交流により他者を思いやり、多文化への理解を深めるなど、**青少年の多様性(ダイバーシティ)の意識を育むため、区市町村が地域の実情に合わせて展開する事業に要する経費を補助する。**

## 概要

区市町村が実施、または地区委員会等に助成する「地域交流事業」、「普及啓発事業」、「体験・経験の場提供事業」を対象に、1区市町村につき100万円を限度に補助金を支出。

## 多文化理解のための工夫

平成30年度からは補助対象事業に、他者を思いやり、多文化への理解を深めるなど、**多様性の意識を育むことを目的とする事業を追加した。**(想定事業:青少年の多文化交流体験事業など)

## 平成30年度実績

26区市町村41事業  
約1千6百万円を補助



(参考)子供まつりの様子

## 事業例

### ・【ジュニア・リーダー研修】

地域の次世代リーダーを育てることを目的として、年間の研修プログラムの中で、子供達に環境学習、外国の生活の学習、地域学習を実施。

### ・【子供まつり】

地域の子供達が自ら考え、行動できる場を提供することを目的に、子供達が企画段階から参画し、主体となって模擬店等を運営。

### ・【多文化共生交流会】

地域に住む外国人の文化を紹介し、参加者同士が地域での多文化共生、国際交流を目的として語らいながら異なる文化、習慣・価値観を理解する。



# ホップ・ステップ・ダイバーシティ講座

## 目的

青少年の健全育成のために活動されている方に対して、地域の多様性を活かして、青少年のダイバーシティ意識を育む健全育成活動について考える機会を提供する。

## 概要

当講座は1回90分程度で、講師を1名派遣する。外国人、障がい者、高齢者理解に関する講義とグループに分かれての意見交換を通じて、地域の青少年健全育成活動に役立つ具体的なヒントを見つける。

講義では東京における青少年を取り巻く現状について学んだ後、クイズなどを通じて、様々な人との交流による相互理解、多様性の尊重・受容の大切さを確認する。

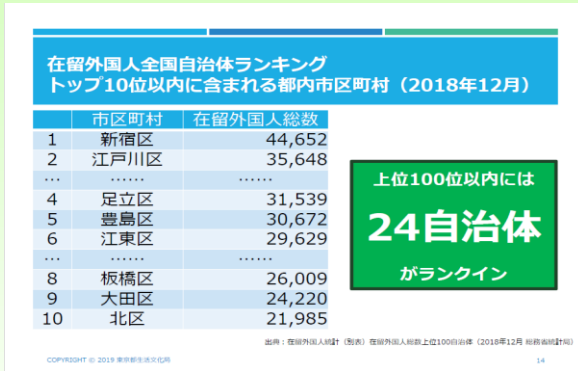
グループワークでは、講座で学んだことを地域の活動にどう生かしていくか、イベントの実施を想定して話し合う。

## 対象


地域で青少年の健全育成のために活動されている団体の方  
(青少年地区委員会、子ども会、PTA等)

# 多文化理解のための工夫

## ○ 東京都における在留外国人の現状等を理解



在留外国人が抱える問題



言語、文化、宗教、生活習慣などの違いや無理解から……

- 住宅の賃貸を断られる
- 商店への入店を断られる
- 就労に関して不合理な扱いをされる

出典：みんなの人間 人間関係の理解のための（平成29年10月 東京都）

在留外国人を支援する東京都の取組の一例



発行：東京都生活文化局

- 知る
  - ・ 東京ってどんなところ？
- 生活する
  - ・ 日本に来たらやること
  - ・ 住む
  - ・ くらし ……等
- 楽しむ
  - ・ 観光・文化
  - ・ 相談する・問い合わせる

発行：東京都 警民安全推進本部

- 日本ルール・マナー
- 注意して欲しい日本の法律
- 自転車に乗るとき注意
- アルバイトをするうえでの注意
- 在留カードについて
- 中長期在留者の輸出義務
- 困ったときの連絡先

出典：みんなの人間 人間関係の理解のための（平成29年10月 東京都）

## ○ グループワークで地域の活動にどう生かしていくかイベントの実施を想定して話し合う

ステップ①  
イベントの対象とテーマを決めましょう

地域の青少年と **対象** の交流を図る **活動**

<b>対象</b> 外国人 障がい者 高齢者	<b>活動</b> 地域清掃 あいさつ運動 ラジオ体操 料理教室 フリーマーケット キャンプ おもちゃつき (その他)
---------------------------------	---

出典：みんなの人間 人間関係の理解のための（平成29年10月 東京都）

テーマ	地域の青少年と「 」の交流を図る「 」
青少年と対象となる方々がコミュニケーションを図るための仕組み	
対象となる方々がイベントに参加する上で想定される困難や支援を生じさせる状況と、それを解消（軽減）する方法	困難（軽減）する方法：



## 受講者の感想（抜粋）

- ・活動を続けていく中でとても有用なヒントをたくさんもらえた。
- ・もっと緩やかな気持ちで、明るく楽しんでいろんなことをやっていきたいなと思った。